

2011年度学校基本データ

【学校名】東海大学附属第二高等学校

【所在地】熊本県熊本市渡鹿9丁目1-1 (〒862-0970)

TEL 096-382-1146

【創 設】昭和36年(1961年)4月1日

【法 人】学校法人東海大学

東京都渋谷区富ヶ谷2-28-4 (〒151-8677)

TEL 03-3467-2244

【理事長】松前 達郎 (マツマエ タツロウ)

【校 長】杉 一郎 (スギ イチロウ)

【課 程】全日制・普通科

【生徒数・学級数】(内数で女子) 2011年5月1日現在

募集定員400名

1 年 369名(97名)10学級

2 年 363名(93名)10学級

3 年 365名(116名)11学級

全 校1,097名(306名)31学級

【教員数】教職員合計96名

校 長 1名

校長代理 1名

副校長 1名

教 頭 1名

教頭補佐 2名

専任教諭 45名

特任教諭 8名

非常勤講師 24名

事務長 1名

事務職員 4名

臨時職員 8名

【進路状況】2011年度末累積卒業生数(360名)

2009年度進路状況 卒業生294名

4年生大学53% 短期大学3% 専門学校29% 就職6% その他9%

2010年度進路状況 卒業生384名

4年生大学57% 短期大学5% 専門学校23% 就職9% その他6%

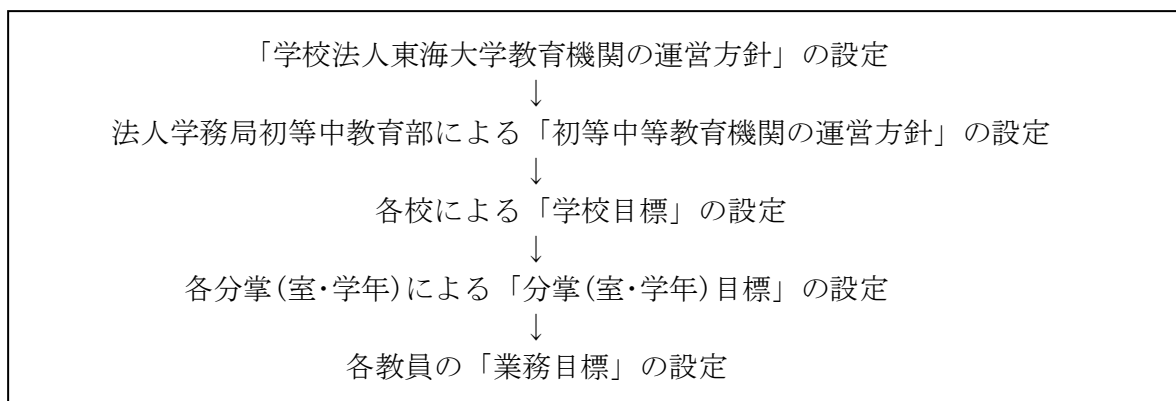
2011年度進路状況 卒業生 名

4年生大学56% 短期大学7% 専門学校%23 就職5% その他9%

【学校目標】

1. 学校目標等の設定

本学園の附属諸学校では『建学の精神』の下、次のようなシステムで「学校目標」等を掲げて業務に精励している。



2. 本校の2011年度教育目標・教育方針

附属第二高校は2011年に創立50周年を迎える。この節目の年に大胆な改革を実施し、恒久的に存続出来る元気な高校へと再建させる。

そのために、「あいさつ日本一」の高校をめざす。目に見える改革として生徒や教職員が声を出し、元気で活性化した教育環境をつくる。これにより「学校が変わった!」という印象をつくりあげたい。これは、望ましい生徒間・教職員間の人間関係づくりの一環でもある。心を込めた気持ちの良い挨拶はより良い人間関係の基盤である。しかし、これほど簡単なようで困難なことはない。たかが挨拶と考えていては本校の改革は成功しない。たとえば「学力日本一」や「スポーツ日本一」にすぐになれるかといえは否である。お金も人も戦略もあらゆる条件が求められる。現有勢力で今の我々に出来ること、そして必要なこと、それは互いが気持ちよく過ごせる、メリハリの利いた環境づくりである。学外からも気持ちの良い学校という声上がるようになることが先決事項である。

「あいさつ日本一」活動を軌道に乗せ、独立採算で運営できる、「学校として当たり前」のことが当たり前のできる学校」をめざす。そのために、下記について教職員が協力し実践することをお願いしたい。

(1) あいさつ日本一の高校をめざす

校内外を問わず教職員がまず率先して、元気よく気持ちの良い挨拶を励行する。その上で、すれ違う際、「立ち止り」「目を見て」「一礼」し元気よく「あいさつ」をする等のスタイルを決めて行うなどの二高バージョンを確立する。また、なぜ「あいさつ」が大切なのか、あるいは人間関係や社会生活の大切さを教える時間や機会を設ける。

(2) 附属高等学校としての特色を活かす

特別進学・サイエンスコースの募集を停止し、学習と部活動の両立ができる普通科40名の進学校をめざす。また、特進クラス・サイエンスクラスをつくり、習熟度別クラス編成を行なう。「進学校であるが、受験校でない」附属高等学校としての特色を前面に打ち出した教育を一層充実させる。受験校ではないことがなぜメリットなのか、東海大学への進学の何が魅力なのか、人生の設計図を描くにあたり、東海大学がどんな役割を果たせるのか等、東海大学のチャレンジセンターでいきいきと活動する学生を紹介するなどして、生徒募集とは別に在校生にこそ熱っぽく語り惹き付ける。

(3) 基礎学力の定着

低学力者には小・中学校分野の完全復習を行うなどの対策を図る。また、高学力者にも満足いく授業を行い、更なる学力向上を目指す。そのためには、教科・学年の枠を超えた学

習支援体制や授業改善、カリキュラム・シラバスの系統化などが必要である。出来る生徒が出来ない生徒を教える時間も方法のひとつであろう。学習のおもしろさを得るためには、基礎分野の習得がなくては伝わらない。教材の吟味のうえに、授業者の巧みな授業力が要である。あの先生のあの授業はおもしろいし、また受けない。あの先生の授業はよく分かるし、考えさせられることが多い等の声が大半になるように授業力を磨く。たとえば自分の授業をビデオに撮って研究するなど工夫が望まれる。また、S P Pや英語検定、漢字検定などにも積極的に取り組む。

(4) 部活動の活性化

部活動を活性化させるため、部活動加入85%をめざす。(特に、新入生は全員加入をめざす。)更に、全教職員による部活動大会への応援体制をつくる。また、部活動費・部費の適正徴収と収支決算報告や監査など徹底して透明性を高める。当然の義務遂行がなくては犯罪につながり保護者の心からの応援は得られない。なお、部活動やその指導者の魅力を高める努力、たとえば部活動ニュースを発行し、活動紹介や選手紹介、部長・監督紹介コーナーなど、部活動を身近に感じるプランなども考えられる。保護者会や生徒会・体育委員会とも連携して部活動全体を盛り上げる。

(5) 生徒指導の充実

規律正しい生活習慣(睡眠・食事・学習)の確立を促す。加えて、時間の厳守や服装・頭髪、挨拶・言葉遣いなどのきめ細かな日常指導を積み重ねる。その上で、事件・事故を未然に防ぐ生徒指導のあり方や校規の見直しと生活指導の徹底を行う。また、退学者・処分者を出さない面倒見の良い指導を行う。充実した学校生活・家庭生活が生徒を学校に繋ぎとめる。保護者への理解・協力を強力に推し進め、連携プレーで指導効果を高める。更に、清掃の行き届いた明るく清潔な校舎を維持できるように指導する。徹底した掃除は大事な教育活動のひとつである。なお、生徒会活動の根本的な意識改革と、密度の濃い指導が出来る見直しを図り、生徒会活動が改革の力になるように育てる。イベント中心から日常中心にシフトを敷く。

(6) 進路指導の充実と東海大学への付属推進

大学卒業後のキャリア教育に連動した進路指導を行う。また、付属推薦達成値を50%から60%に変更しその値を達成させる。そのためにも、入学時から絶え間なく東海イズムを啓蒙し、生徒・保護者への東海大学進路情報を定期的に提供する。更に、東海大学関連の説明会や三者面談などを計画的戦略的に実施する。戦略とは人の心を惹き付ける工夫のことをいう。

(7) 教育の質的向上

生徒による授業アンケート(評価)の教員間公表や全てのクラスの授業公開、学校評価の公表とフィードバック、研究授業や公開授業の開催などによって、教育の質的向上を図る。また、高校現代文明論の推進や学園オリンピック・SHIP・建学記念論文などの学園行事へ積極的に参加させる。呼び掛けるだけでは紹介に過ぎない。これまで説明会や集会でのDVD放映などの工夫がされてきたか。更に、教職員研修会の内容精査と他先進校の研究を行う。

(8) 保護者との協力体制の確立

生徒の保護者に対し、生徒への生活指導や生活・学習習慣確立の重要性などについて十分説明し協力をお願いした上で、保護者との協力体制を確立する。そのためにも、保護者会に8割出席して頂く手立て(方法)や学校と保護者の距離を縮める企画などを実施する。保護者の立場に立った目で企画し、クラスの中に積極的に動いてくれるキーマンを見つけ、頻繁に連絡を取り合う。学年保護者役員会等を定期的に関き、相互の意見交換が出来る機会を設

ける。たとえば、授業参観のあと意見・感想を聞く会なども考えられる。保護者との適度と思われた距離を、これまでより縮める時機になってきている。

(9) 生徒募集の見直し

募集定員を確保するため、奨学生入試や専願入試、部活動（スポーツ）奨学金などの生徒募集の見直しを行う。また、重点・準重点中学校の目標値（たとえば、中学校別入学者10名増）を設定し実現させるために、中学校教員や塾教員とのパイプを強化する。更に、魅力的なオープンキャンパスや学校説明会（入試説明会）などを実施する。また、学校案内（パンフレット）などの広報媒体の工夫や地区後援会の協力、HP刷新などの新しい広報戦略を検討し実施する。

(10) 熊本キャンパスとの連携

東海大学熊本キャンパスの学部学科再編にあわせて、スポーツ（部活動）や授業などにより一層の連携を図り、熊本キャンパスとのコミュニケーションを推進する。その上で、本校からの付属推薦で熊本キャンパスの入学定員の半数を確保するための協力体制を確立する。全教職員が、この2年間で集中的に熊本キャンパスへの関わりを深め、運命共同体の自覚を持つ。

(11) 創立50周年記念事業

創立50周年記念事業を教職員・同窓会・PTAなどの様々な協力を得て成功に導く。特に、教職員にはご協力をお願いしたい。なお、創立50周年関連の資料保管や整理等も行う。不平不満を長年持ち続けて勤めるより、この数年の我慢を最後に、果敢な改革を行い、胸を張って勤務先を話せる学校にすることで、次の希望の持てる50年への足掛かりをつくろう。

以上